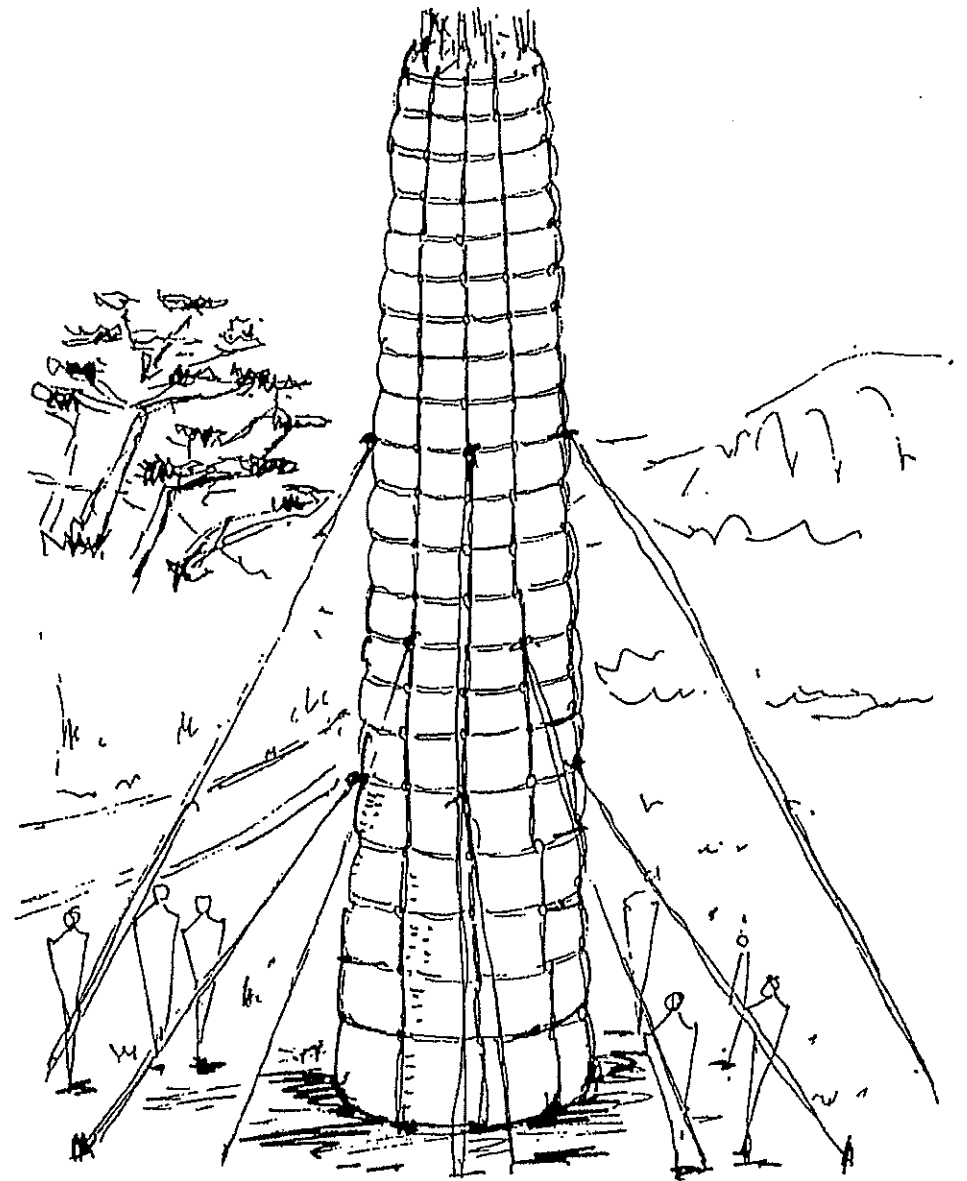


# 大松明製作マニュアル

松明をもちたてる会

# 目次

☆製作にあたって	・・・1
☆必要備品等一覧	・・・2
☆製作過程	
①骨組みを作る	・・・4
②“力竹”を入れる	・・・5
③“タル木”で形を整える。	・・・6
④“むしろ”（畳おもて）を巻き付ける	・・・7
⑤骨組みに“かや”（すすき）をつめる	・・・8
⑥“番線”を巻く → 飾り紐をつける	・・・9
⑦根元に飾り紐をつける	・・・10
⑧張り番線用の番線を作る	・・・11
⑨火種をつける	・・・11



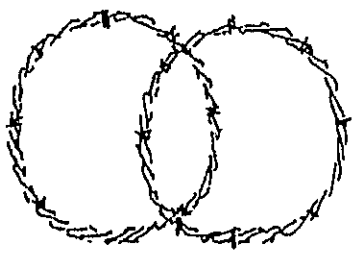
# 製作にあたって

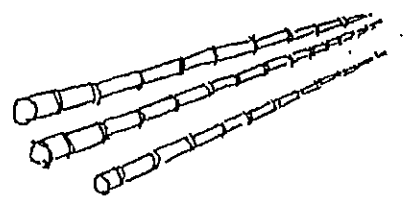
大松明の製作にあたっては、次の事項に十分留意して作業を進めてください。

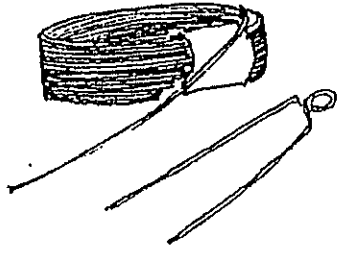
○汚れても良い服装で、作業してください。

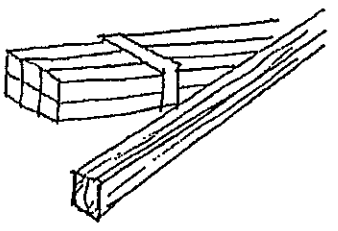
○靴はなるべく丈夫な物を履いてください。

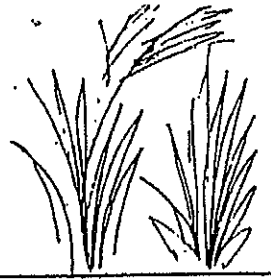
○かなりの重量になります。また、番線等の細かな突起物が出てきますので、安全面には十分配慮してリーダーの掛け声等でメンバーのこころをひとつにしてして作業してください。

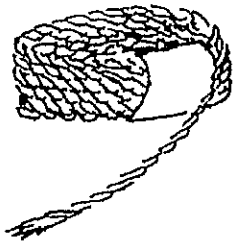
<b>①</b>	たが (竹を割いて編んだ物)
	
直径 1.8 m ~ 1.5 m 20本 (直径で 1.5 cm きざみ)	

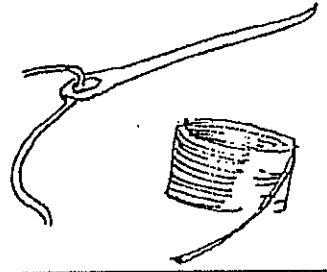
<b>②</b>	竹 もうそうより唐竹がよい
	
主竹用 (真っ直ぐな物) 10 m 以上 8本 力竹用 7 m 位 32本	

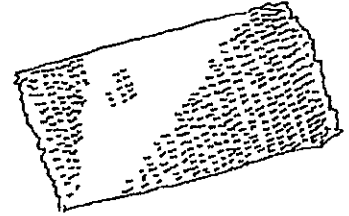
<b>③</b>	番線 (なまし)
	
2巻を用意	

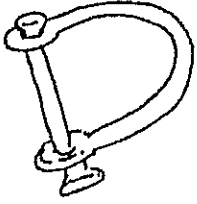
<b>④</b>	タル木 (角材)
	
骨組みの矯正に使用 寸法は、 1.3寸 x 1.5寸 x 1.3 10本程度	

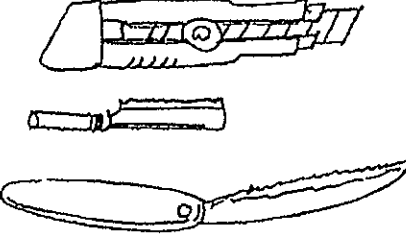
<b>⑤</b>	かや (すすき)
	
かや・すすき等乾いた草 軽い物であれば可。 4 tトラック1台分	

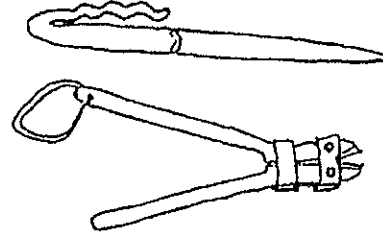
<b>⑥</b>	縄 (あらなわ)
	
2巻を用意	

<b>⑦</b>	たたみ針・荷造り紐
	
畳おもてを縫い付ける時に使う	

<b>⑧</b>	畳おもて (むしろ)
	
できるだけ色の均一な物を もらう	

⑨	ロープ・シャックル
	
<p>ロープは5 cm×30 m 1本 シャックルは、ロープ用で 大きめのものを1個</p>	

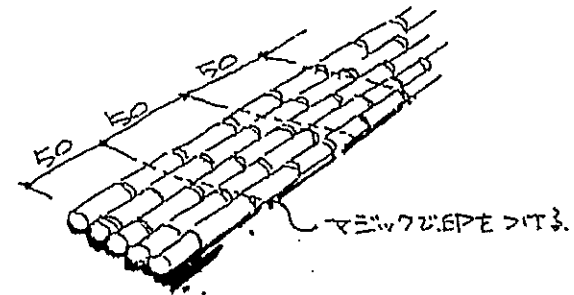
⑩	竹用のこぎり・カッター
	
<p>多めに用意</p>	

⑪	番線切り・しの
	
<p>番線切りは3丁ぐらい しのは、番線をしめる時に 使うので多いほど良い</p>	

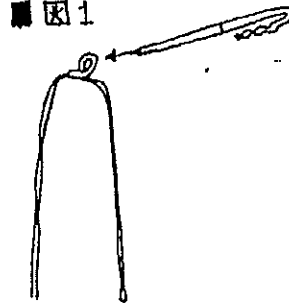
⑫	軍手・マスク
	
<p>カヤを詰め込む作業時に かなりのほこりがでる</p>	

# ①骨組みを作る

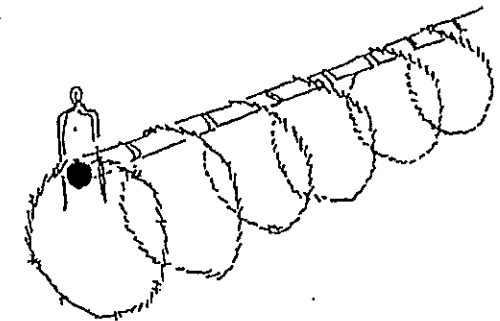
- ・主竹に印をつける。  
主竹8本を並べ、たがに結ぶ位置（50cm間隔）に印をつける。
- ・たがをつけて固定する。  
そのうちの1本にたがを番線で固定する。（この時、しのをを使う）  
その際、番線は右図1のようにしておくといよい。  
1本が終わったら、対角に同じ要領で8本を固定していく。  
こうして、最初の骨組みを右図2のように作成する。



■ 図1



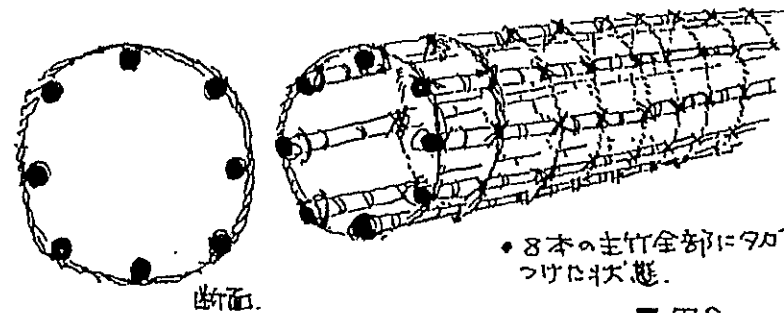
・番線は2倍分の長さで、半分の位置に(シ)を挿しこむ(らしいのゆを)作っておく



・タガを、主竹に番線2倍の長さで固定する。  
・番線は、主竹にまはかせた上で、本を対角に巻き込み、最後にシノで、しめる。

## check point

- ※主竹をたがに固定するとき、あまり締め過ぎないこと。  
主竹が割れてしまうことと位置のバランスを見たときずらすことが、できるようにするため。  
ただし、この場合バランスを見たら必ず締めておく。

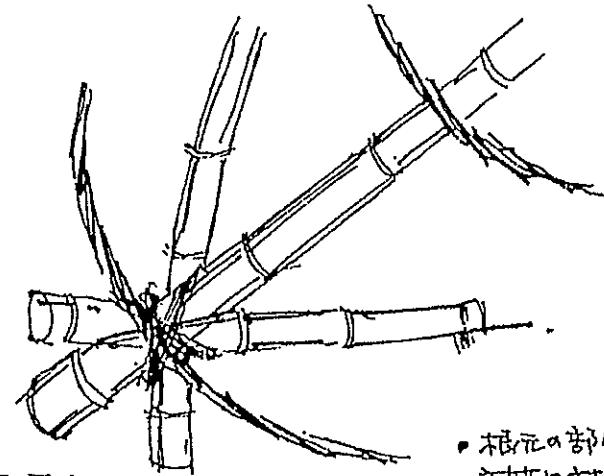


・8本の主竹全部にタガをつけておく。

■ 図2

## ②力竹を入れる

- 右図1のように根元から対角の竹にむかって力竹をつけていく。
- まず根元の主竹に力竹の根元を固定する。
- 途中を手でおさえながら対角の主竹の先までもっていくようにするが、この時力竹を継ぎ足して2本で対角にもっていくようにする。
- たがと主竹の連結部位に重ねて固定していく。
- 全ての主竹の根元から2本ずつ入れる。
- ここまでの完成図は、右図2のとおり。

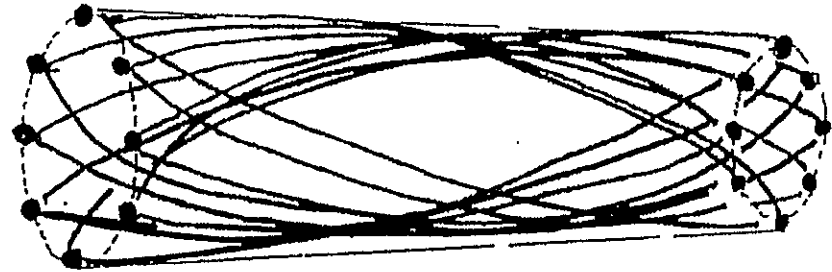


■ 図1

● 根元の部分、  
主竹に対して、対角に  
力竹を固定。

### check point

- ※力竹を継ぎ足すとき1mくらい重ねて固定すること。
- ※固定箇所は必ず主竹にすること。
- (たがのみに固定しても、意味を成さない。)



■ 図2

力竹の位置  
すべて対角に、2本ずつ  
(主竹8本×2 16本)

### ③タル木で形を整える

・主竹の対角に向けて根元からタル木を入れ、形を整えていく。

この時、右図1のようにタル木を加工しておく。右図2のように番線で固定するが、締め過ぎるとタル木が割れてしまうので注意すること。

タル木はできる限り垂直に取り付けていくこと。根元は、4本。ほかの4カ所は、2本で良い。

たがを固定する位置は、つぎのとおり。

根元（4本）5番・8番・12番・16番たが（各2）

・張り番線用のシャックルを作る。

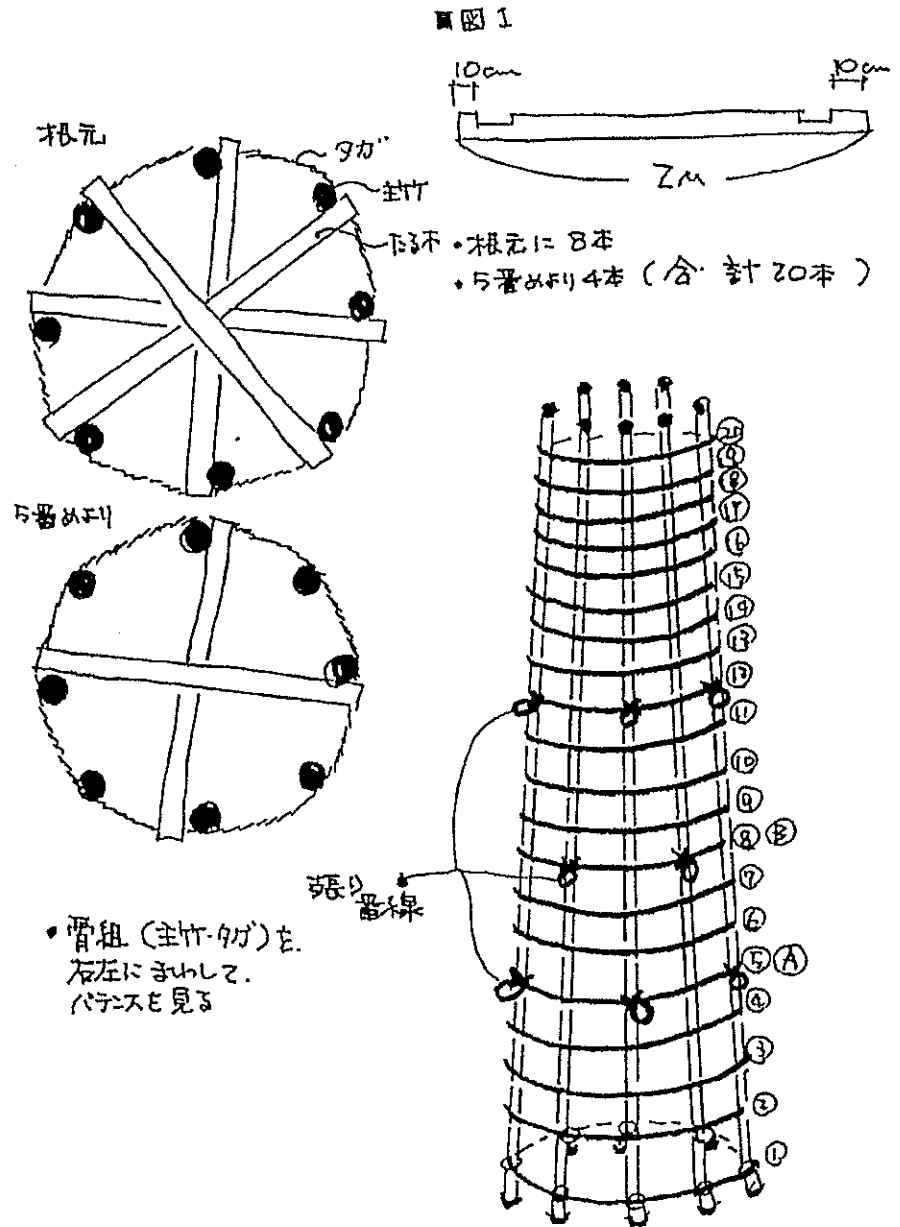
5番と8番たがの位置の対角に右図3のように、番線でそれぞれ互い違いになるように4か所ずつシャックルを作る。ロープ用のシャックルは、12番に取り付ける。

check point

※タル木を固定する時、中に入って竹を押し上げるようにしながら形を整えていくこと。

※必ず骨組みを回しながらバランスを見ること。

※番線用シャックルは、頑丈に作ること。





## ④ 畳おもてを巻き付ける

・畳おもてを右図1のように並べる。

まず1段ごとに縫い付ける。

縫う時は、10cmほどの縫いしろをとって縫い付ける

(右図2)

各段が出来上がったら、中心を合わせて縫い付けていく。

この時、根元のほうから根元を上にして縫うこと

縫いしろは、15cmくらい取っておいたほうが良い。

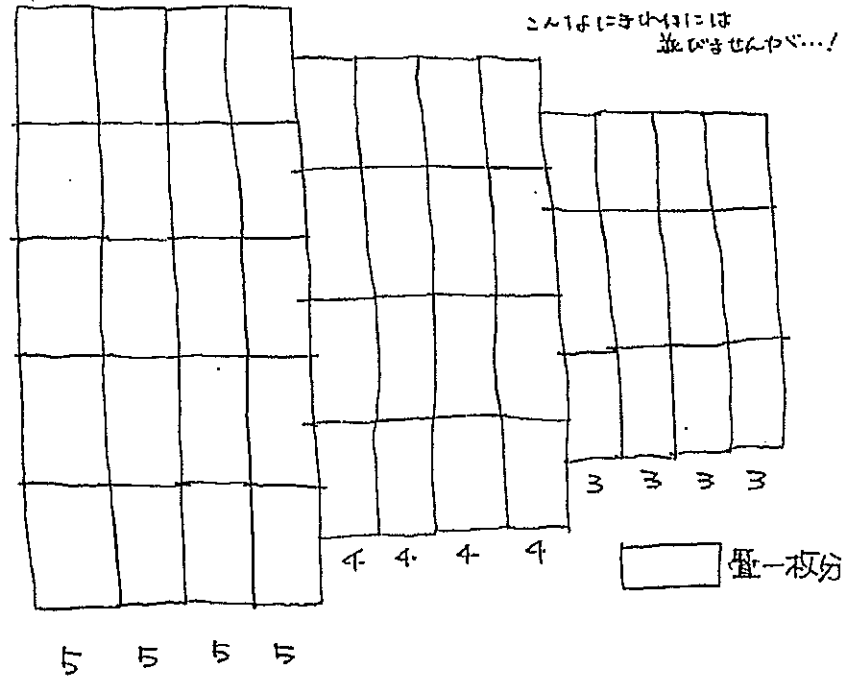
check point

※縫うときはできるだけ細かく等間隔で縫い上げていく

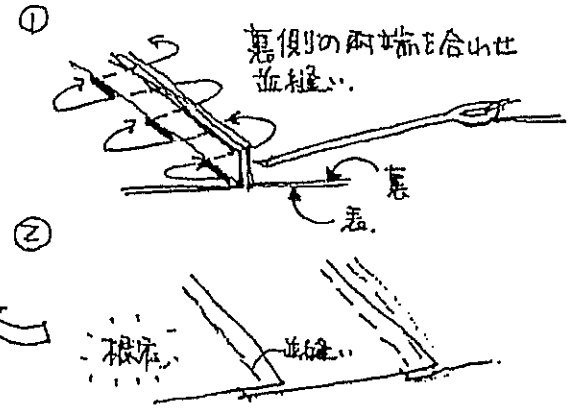
※巻き付けた状態で畳おもての根元が下になっていること

を確認する。(右図3)

■ 図1



この15cm縫いしろには  
並びませんわ...!



裏側の両端を合わせ  
並縫い...

↑先

②

根元

根元

裏

表

並縫い...

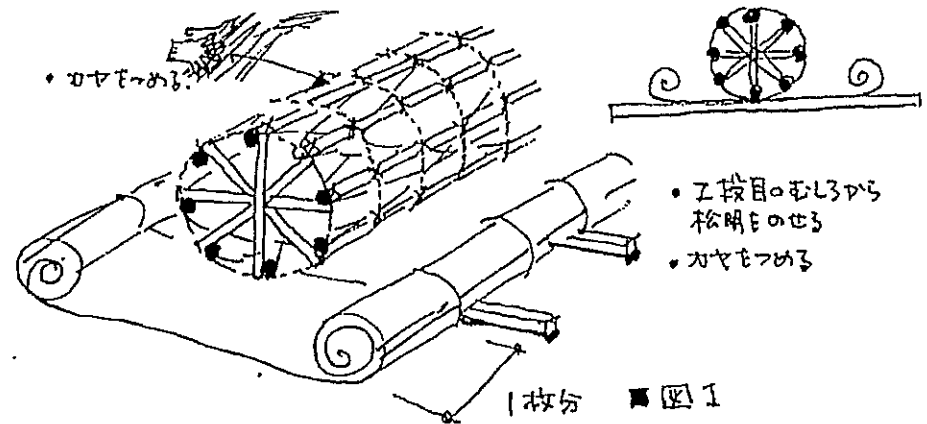
## ⑤ 骨組みにかやを詰める

- まず右図1のように④で作った畳おもての下に角材を置き、その上に骨組みを乗せる。  
次に骨組みの隙間から、かやを詰める。  
この時、かなりの埃がたつことと番線の突起部分に注意しながら作業すること。
- 詰め終わったら、畳おもてを広げて巻き付ける。  
右図2のように縫い合わせる。
- 縫い付いたら、番線用シャックルを取り出す。  
この時、切る範囲はなるべく狭い方がよい。  
(張り番線は、立てた時の固定用に使うもの)

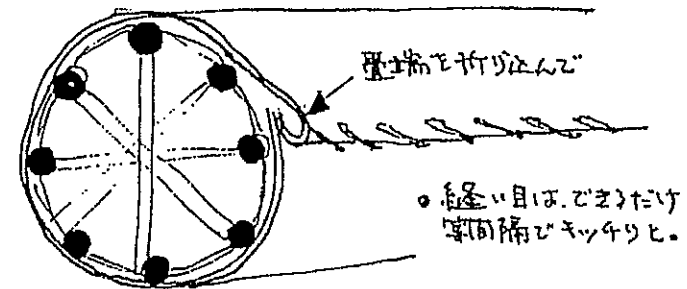
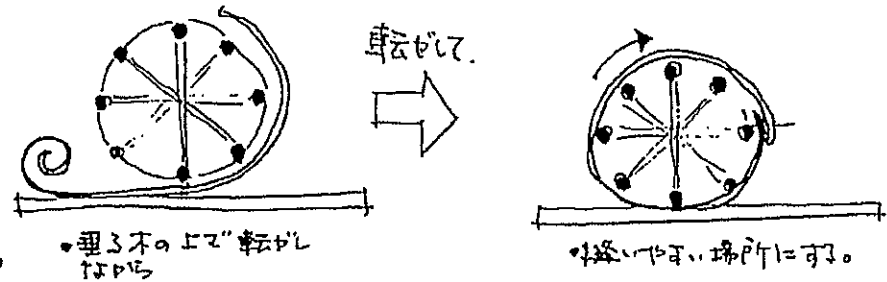
### check point

骨組みを乗せる時、根元は畳おもての2段目から置くこと。

1段目の畳おもてで根の部分を覆うため。



■ 図2

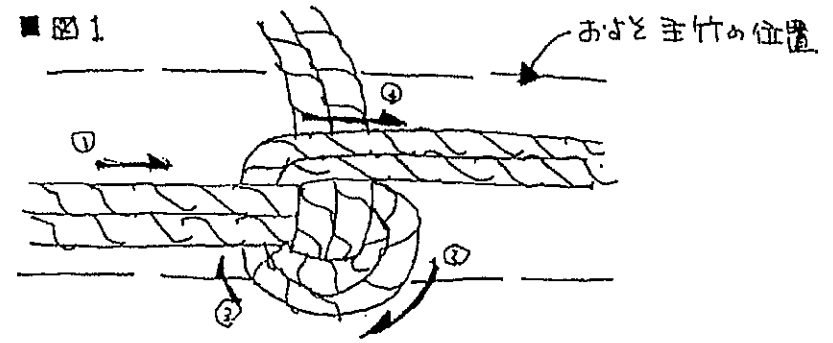
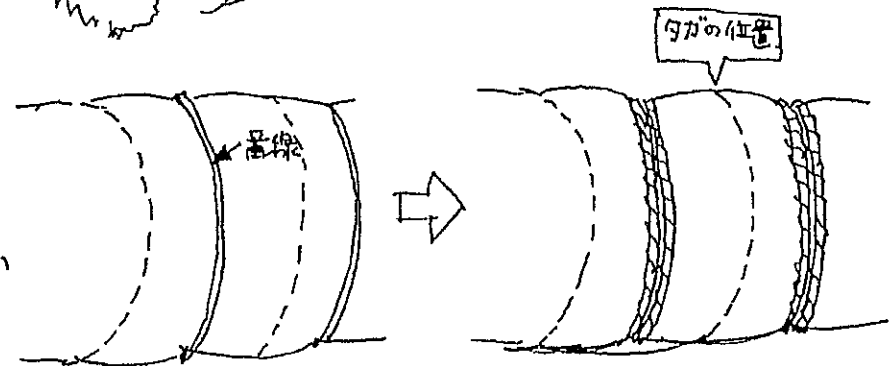
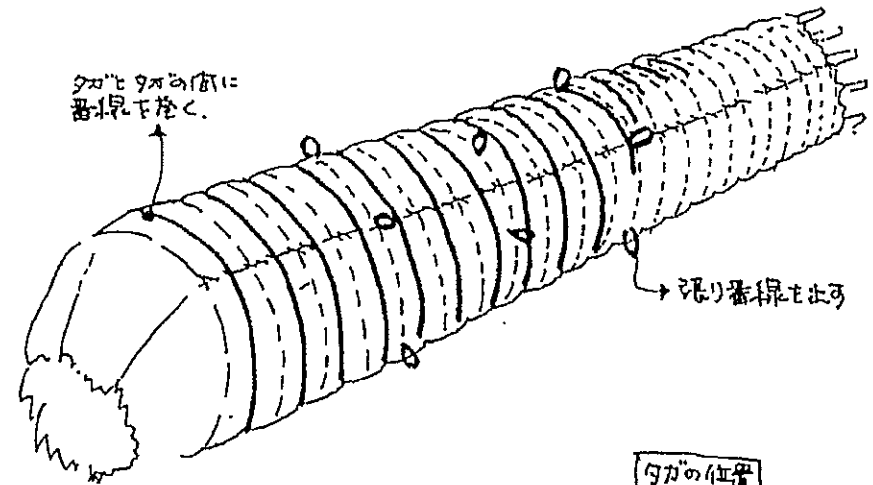


## ⑥ 番線・飾り縄をつける

- ・たがの位置とたがとたがの間に番線を巻き付け形を整える。(2回りで40か所)
  - ・番線の上に飾り縄を巻き付ける。(2回りで40か所)
  - ・横の飾り縄をつけ終わったら、縦の飾り縄を編むようにつけていく。(右図1の要領で・・・)
- この時、2本化した15mの縄を8本作っておく。  
縦なわは主竹の位置につけていく。

check point

- ※飾り縄の出来は、出来栄えの80%を占める。  
たるみをできる限りさけるようにキッチリと編んでいくようにする。



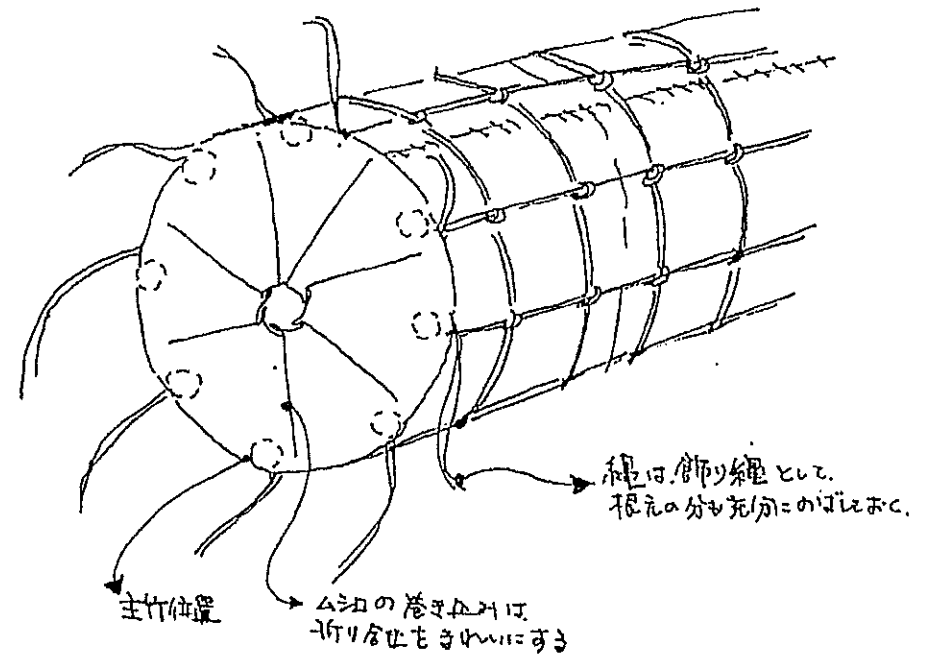
## ⑦根元に飾り縄をつける

- ・根元に対角に縄を結ぶ。(右図1)
  - ・次に横に編んでいく。この場合の編み方は、縦の飾り縄の要領で行う。(右図2)
- 蜘蛛の巣のような形になる。

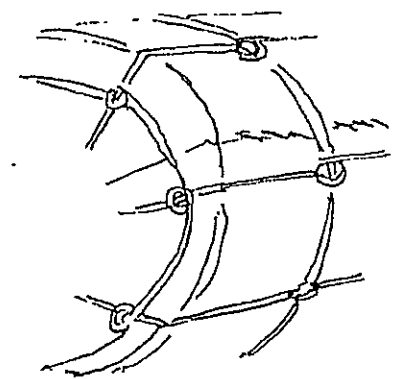
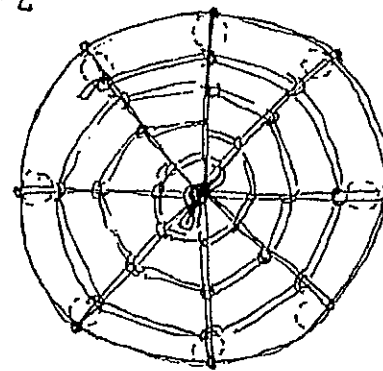
check point

※間隔を狭くして等間隔で編んでいくときれいに仕上がる。

※ゆっくりとバランスを見ながら編んでいくのがコツ。



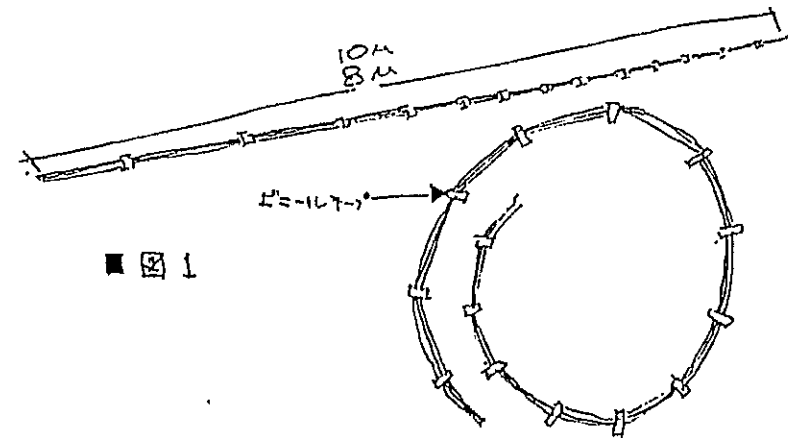
■図1・2



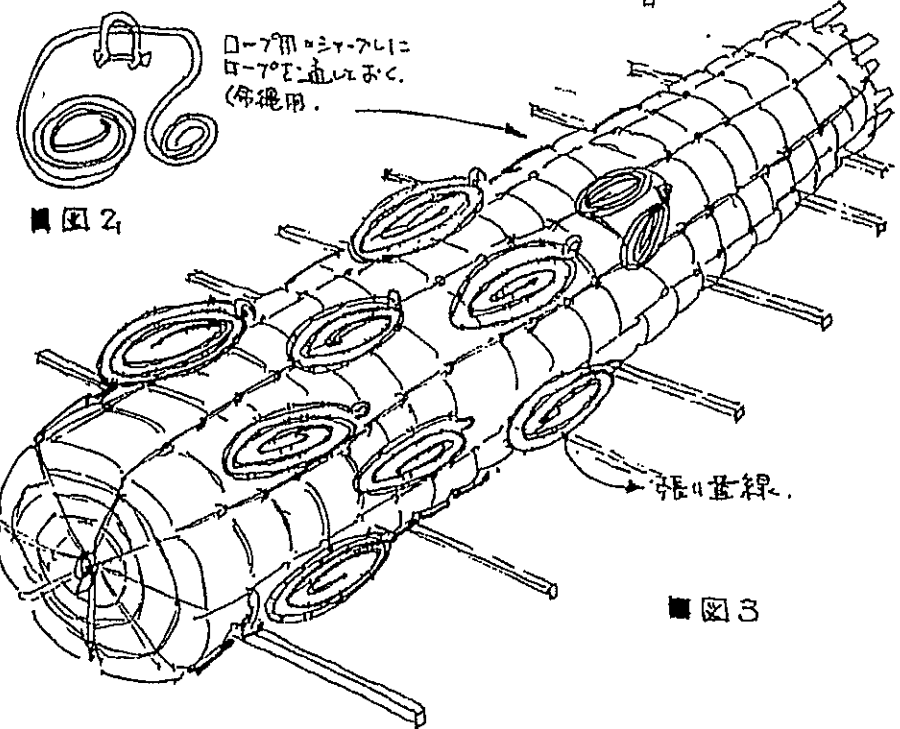
・間隔を狭く、キチリと巻きながら仕上げる。

## ⑧ 張り番線用の番線を作る

- ・ 2本化にして、10mと8mの番線を作り、途中をビニールテープでとめておく。(右図1)
- ・ 張り番線用のシャックルに先端を固定し、巻いた状態でとめておく。
- ・ ロープ用のシャックルにロープ中央を通して、左右に巻いた状態でとめておく。この時、ロープを結んでしまわないこと。(右図2)
- ・ ここまでの作業で右図3となる。



■ 図1



■ 図2

■ 図3

## ⑨ 火種をつける

- ・ 先端部に灯油を入れたビニール袋をセットする。
- ・ そのためにステイを右図4のようにセットしておく。
- ・ 段ボール箱の小さい物を先端部に固定しておく。

■ 図4

